

令和6年度第4回一関市水道事業経営審議会 会議録

- 1 会議名 第4回一関市水道事業経営審議会
- 2 開催日時 令和6年9月27日（金） 午後3時30分から午後5時30分まで
- 3 開催場所 一関保健センター 多目的ホール
- 4 出席者
 - (1) 委員 二階堂満委員（会長）、大矢功喜委員、小野寺健一委員、
小野寺敏彦委員、川崎博雄委員、佐藤愛理委員、
佐藤誠委員、佐藤みさ子委員、高橋系子委員、
※欠席者 菊地正子委員、熊谷和子委員、佐藤航委員、千田好記委員、
千葉一郎委員、千葉理恵委員、松岡千賀子委員
 - (2) 事務局 伊東吉光上下水道部長、
鈴木智上下水道部次長兼東部上下水道課長、
小野寺勝也経営総務課長、佐藤耕一水道課長、
熊谷貴之経営総務課長補佐兼水道経営係長、
千葉成幸水道課長補佐兼水道工務係長、
米田理恵子経営総務課総務係長、佐藤美帆水道課水質管理係長、
鈴木文香経営総務課主査、小野寺涼経営総務課主事
- 5 議題 水道事業の健全経営について（水道施設・管路の整備等）
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 2人（うち報道機関2人）
- 8 二階堂会長あいさつ

本日は、市からの諮問事項について、委員の皆さまからいろいろなご意見をいただき、次回以降、市に答申をするという形になろうかと思う。

言うまでもなく、水道については我々が生きていくためにはなくてはならない重要なインフラである。

蛇口をひねるだけで安心、安全な水を飲めるということに関して、普段はあまりありがたみを感じない状態で水をいただいているが、災害などがあつた時には水のありがたさをしみじみと感じており、市役所の皆様方に対しては、安心、安全な水道を供給するという点でご尽力いただき、感謝している。

この水道事業に関しては、一関市のみならず、全国的に人口が減ってきており、少子高齢化や施設の老朽化といった山積みの問題がある。そのような中で、いかに効率的な経営をしなければいけないかという部分については、重要な課題だと思う。

ぜひ、委員の皆様から、忌憚のない自由闊達なご議論をいただき、市民の方々が納得できるような答申をさせていただきたいと思っているので、よろしく願いしたい。

9 審議内容

(1) 審議会の経過報告

事務局から資料1に基づき説明した。質疑等なし。

(2) 水道事業の健全化に向けた取組について

事務局から資料2に基づき説明した。質疑等なし。

10 意見交換

2班に分かれ、3つのテーマで意見交換を行った後、各班から意見を発表し、全体へ共有した。

テーマ1：耐震改修について

テーマ2：管路の整備について

テーマ3：水道施設の統廃合について

(1) 意見発表

1班 テーマ1について、布設替や漏水修繕の件数、費用が資料に掲載されているが、東日本大震災の時との比較の資料があればいいという意見が出された。

テーマ2について、1年に15キロメートル程度の水道管の布設替をして耐震化を進めているという説明があったが、一関市全体で2,000キロメートルを超す水道管の延長からすると、耐震化を図るにはかなりの時間と費用がかかるのではないかという話があった。

実態として、家には誰も住んでいないところにまで水道管が整備されているという場所もあると思うが、これから人が減っていくというのが目に見えるのと、経費だけがこのままかかっていくのかなという懸念もある。

資料には井戸の利用についても掲載されていたが、井戸を持っている方はどちらかというと、中心市街地よりはずれに住んでいる方だと思う。人が井戸に落ちるとい事故があってはいけないということで井戸を埋めている家庭も見受けられる。その井戸を、野菜を洗ったり、トイレなどに使

ったり、水源として活用できればいいのではないかという意見が出された。

テーマ3について、市長は、企業も人も一関市に分散して、今住んでいるところに住み続けられるようにということを謳っているが、そのように謳っている中で施設の統廃合という形を取ることは難しいと感じる。一方で、速やかに統廃合を進めてほしいという意見もあった。

また、統廃合でうまくいっている成功例があれば紹介してほしいという話があった。

2班 2班から出された意見は大きく3つあり、1つ目が、人口減少に伴う料金収入の減少は避けられない未来であることから、公営企業としての持続を図るため、10年後、20年後を見据えて、優先順位をつけながら水道施設の統廃合やダウンサイジングを進めてほしいという意見があった。

ただし、管路や施設の更新については、いきなりやめるのではなく、地域の中で話し合いができるように、どのように統廃合を進めていくのか、将来的な見通しを示してほしいという意見もあった。

2つ目が、給水人口をカバーできるような施設が近接してあるのであれば、そのようなところから統廃合を進めていくべきではないかという意見があった。

3つ目が、蛇口を捻れば水が出る水道水のような仕組みだけではなく、資料にあるような既存の水道によらない多様な手段で水を供給できる仕組みを検討すべきだという意見があった。

(2) 二階堂会長から

どのテーマについても重要な課題で、今日はグループごとに自由で活発な議論がなされていた。

本日の審議会の時間だけではこうすればいいだろうという解決策までは見出せなかったと思う。

予定では、次回に答申となるが、本日の意見交換の内容を持ち帰って、周りの方々に意見を聞いたり、改めてじっくりとお考えいただいたりして、次回の答申でうまくまとめられればと思う。

(3) 伊東上下水道部長から

審議会の目的については皆様ご存知のとおりであるが、現在の市の水道事業の現状についてご理解をいただき、今後の水道事業の方向性について様々な立場からご意見をいただくということが大きな目的である。

本日の審議会では初めてワークショップの形を取らせていただいた。

審議会ではあまり取らない手法だが、これも目的があり、会議では机を口の字にして、向かい合いながら皆様のご意見をそれぞれ伺うというやり方が多いが、そうではなく、お隣と席が近い中で話すことによって意見を出しやすい雰囲気を作りたいという狙いがあった。

これも目的を達成するための手法、手段のひとつであり、水道施設の整備についても同じで、いろいろな工法、手法、手段があると思うが、安心、安全な水を市民の皆様にご供給していく、そして健全な経営をやっていくという水道事業の目的は不変なものである。そのために、その時々状況によって、手法や方法を選択していくことになるかと思っている。

本日は色々なご意見を頂戴したところであり、感謝申し上げます。10月の審議会についても、よろしくお願ひしたい。

11 その他

委員 今日には水道水を2種類いただいた。なんとなく味に違いがあるなという感覚はあったが、どこが違うか考えてみると、もちろん水源は違うが、浄水方法が違うということが分かった。

浄水方法について、どちらかに費用がかかることがあると思うが、市では、今後どのような浄水方法を採用していくのか方向性は決まっているのか、水源によって適した方法があるのかを教えていただきたい。

事務局 お飲みいただいた2つの水道水の浄水方法の違いは、地下水と表流水であり、表流水の方が、不純物や有機物が多く入っているため、地下水に比べ、処理にお金が掛かっている。水源によって浄水方法が変わるものである。

12 担当課 上下水道部経営総務課